

令和8年度 第1回 九段中等教育学校 学校経営評議会 会議録

日時 令和8年6月12日（金）午後1時58分から午後3時45分

場所 九段中等教育学校 九段校舎 会議室

○会長 多少定刻の前なのでございますが、皆様おそろいでございますので、開会したいと思います。令和8年度第1回「九段中等教育学校 学校経営評議会」を開会いたします。

本日は、田村委員、野中委員から所用により御欠席の連絡をいただいております。

また、桂副校長が他の公務のために御欠席とのことです。

それでは、開会に当たりまして、富川校長から御挨拶をいただきたいと思います。

○校長 皆様、こんにちは。

本日は、大変お忙しい中、学校経営評議会にお集まりいただきましてありがとうございます。

私はこの4月に校長として着任いたしました富川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

菊友会の皆様、保護者の皆様、学識経験者の皆様、地域の皆様、そして、千代田区教育委員会の皆様の御支援があって、本校は今日まで歩み続けることができております。心より感謝申し上げます。

本校が大切にしてきた伝統である「至大至剛」の精神、そして、学びへの誠実な姿、これらは本校の根幹であって、私たちが何よりも守るべきものであると思っております。菊友会の皆様が学校を見守ってくださるのは、この伝統を次の世代へ確かに受け継ぎたいというお気持ちからだと思います。その思いを私たちも深く受け止めております。

しかし、同時に私たちは変わることを恐れてはいけないと思っております。社会が刻々と変化し、生徒たちが生きる未来というのは私たちが想像する以上に多様で複雑です。だからこそ、伝統を尊重しながらも、時代に応じた新しい教育の形を常に模索する必要があると考えております。

昨年、中央教育審議会から新学習指導要領に向けた論点整理が示されました。その中で、これからの教育においてますます重要となるのが探究であることが改めて示されております。また、AIの発展は目覚ましく、大学入試においてもAIの力がどれほどすさまじいかが取り上げられております。そのような時代だからこそ、私たちが問うべき問いがあるのではないかと考えております。

6年間一貫の教育という長期的な視点の中で、私たちは、学ぶ、生きる、鍛えるという3つの柱を大切にしております。リベラルアーツと探究学習を融合させた九段探究プランを通じて、生徒たち自らの疑問を大切にし、それを深掘りして新しい知を創造していく経験を積み重ねています。

グローバル教育、STEAM教育、アントレプレナーシップ教育、これらは生徒たちが多角的

な視点を持ち、自分たちの人生を主体的に切り開き、社会に貢献できる人間へと成長するための筋道となっております。

また、千代田区という地の利を生かして、教育D Xや生成A Iといった新しい技術も活用しながら、子供たちがA Iとどう付き合うかを学んで、人間しかできない創造的な思考力を磨く環境を整えております。

伝統を尊重しながらも、時代に応じた適正なビルド・アンド・スクラップを重ねることで、本校の教育はより一層輝くと信じております。本校の教育は決して学校だけでは完結しません。菊友会の皆様の励ましのお言葉や保護者の皆様の信頼と協力、そして、地域の皆様の温かいまなざし、そうした皆様の支えがあって、初めて生徒たちは安心して学んで成長することができると考えております。

これから本校は、皆様と共に生徒たちの未来のために丁寧に誠実に歩みを続けたいと思っております。そのような視点で本校の経営方針、経営計画について御助言いただければ幸いです。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。

次に、4月から教育委員会の教育担当部長、統括指導主事、担当指導主事の異動があったとのことですので、部長の中田部長から順次御挨拶をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○教育担当部長 4月から教育担当部長に着任しております中田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○統括指導主事 統括指導主事の相場と申します。よろしくお願いいたします。

○指導主事 指導課指導主事の高橋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。

引き続きまして、事務局のほうにも異動があったとのことですので、御挨拶をお願いしたいと思います。

○事務局 4月1日付で着任いたしました遠藤と申します。よろしくお願いいたします。

○会長 委員のほうは変更がなかったようですが、それ以外のところで異動があって反映されておりますので、どうぞ皆さん、これからもよろしくお願いいたします。

それでは、本日の会議に入る前に、配付資料の確認について大塚経営企画室長よりお願いいたします。

○経営企画室長 経営企画室長の大塚でございます。今年度もよろしくお願いいたします。

それでは、席上に配付いたしました本日の資料について確認をさせていただきます。

まず、本日の次第、資料1が令和8年度の学校経営評議会の委員名簿と両面刷りで本日の席次表となっております。資料2といたしまして学校経営方針、資料3として学校経営計画、資料4が①から⑥までございますが、各分掌及び各学年の組織目標となっております。資料5が令和7年度の重点目標と数値目標、最終報告版となっております。最後に参

考資料といたしまして、令和7年度の学校経営方針、それから、学校案内リーフレット、そして、校長室だより4、5、6月号と、今回資料が多うございますけれども、不足や乱丁のものはないでしょうか。よろしゅうございますか。

ありがとうございます。

では、会長、よろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。

資料のほうは皆さんよろしいということで、次に進めさせていただきます。お手元の次第に沿って進めてまいります。3つの議題がありますので、そのうちの1番、令和8年度の学校経営方針の説明について、それから、資料3の学校経営計画につきまして富川校長より、資料4の各分掌及び各学年の組織目標につきましては、山中副校長より御説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○校長 よろしく願いいたします。

皆さん、熱中症に気をつけて、お飲み物を飲んでください。よろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。

○校長 それでは、私からは令和8年度九段中等教育学校の経営方針、経営計画について説明いたします。

配付資料の資料2、3となりますので、お手元に御用意いただければと思います。

改めまして、この4月1日付で九段中等教育学校の校長として着任いたしました。これまで私は校長職として教育行政の立場から現場を支え、また、専門高校では、実学と生徒の職業観を育む指導員、そして、昼夜間定時制、エンカレッジスクールでは生徒一人一人に寄り添う丁寧な指導に、進学校である都立中等教育学校では学力向上と進路実現に携わってまいりました。これら異なる現場での学びと経験を全て本校の経営に結びつけていきたいと考えております。多様な生徒に寄り添う温かさと高い志を育てる厳しさを両立させて、「至大至剛」の精神に裏打ちされた九段の教育をさらに確かなものにしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

説明は、こちらの6つの構成で進めさせていただきたいと思います。

こちらが令和8年度の学校経営方針の全体像となります。最上段に経営理念「千代田・九段から、未来を創る」を据えて、校訓である「至大至剛」の精神に根差したスクール・ミッションを置いております。そこから教育目標の豊かな心、知の創造未来貢献と卒業、教育課程、入学の3つのスクールポリシーを具体化し、長期的目標として「学ぶ・生きる・鍛える」の3本柱に教育DXの推進、教職員の組織力向上を加えた5つの柱で整理しております。そして、最下段に今年度の具体的な取組として学習指導、進路指導、生活指導、特別活動、学校経営の5領域で展開してまいります。

これらの構造に沿って順を追って説明を申し上げます。

本校のスクール・ミッションは、伝統の「至大至剛」の精神の下、未来貢献できる人材を育成し、生徒の可能性を最大限に伸ばさせる学校でございます。至大至剛、この上なく

大きく、この上なく強く、しかも正しい。これは本校創立以来受け継がれてきた精神でございます。この精神の下、豊かな教養と人間性、高い志を身につけ、創造的・意欲的に行動し、他者と協調・協力して、未来志向で責任を持って未来に貢献できる人材を育ててまいります。

生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばさせる。これが本校の不変の使命でございます。

本校の教育目標は「豊かな心 知の創造 未来貢献」です。この3つのキーワードは、それぞれに深い意味を持っております。豊かな心、他者への思いやりと感謝を大切にし、自他を敬う心、本校の他者への思いやりの伝統をさらに高めてまいります。

知の創造、探究と協働を通じて自ら問いを立て、新しい知を見いだす力。これは中期的目標の中心でもある九段探究プランで育ててまいります。

そして、未来貢献、地球規模の課題に向き合い、未来志向で責任ある行動ができる姿、グローバルリーダーとしての資質を6年間一貫通貫の教育で育ててまいります。

この3つの柱が本校の教育の全ての基準となります。

本校のスクール・ポリシーは、グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つで構成されております。

グラデュエーション・ポリシーは卒業までに身につけさせる力の定義でございます。創造的思考力、課題解決力、人間関係形成力、意思決定力の4つの力を6年間で確実に育ててまいります。

カリキュラム・ポリシーは、それを実現するための教育課程の方針です。リベラルアーツと探究学習を基本に「学ぶ・生きる・鍛える」の3つの柱で6年間一貫通貫したカリキュラムを編成いたします。

アドミッション・ポリシーは求める児童像でございます。思いやりの心と好奇心、主体性とやり抜く意志、目標設定と行動選択ができる。そうした意欲ある児童をお迎えしております。

この3つのポリシーを入り口から出口まで一貫してつなげることで、本校の教育の質を担保しております。

中期的目標は5つの柱で整理しております。千代田区教育委員会の教育目標と中等教育学校基本計画、そして、スクール・ミッションに基づき、教育のフロントランナーとして6年間を一貫通貫した特色ある教育活動を展開してまいります。

5つの柱は、まず「学ぶ・生きる・鍛える」という本校伝統の3本柱に、そこから時代に不可欠な教育D Xの推進と教職員の組織力向上を加えた構成でございます。これから一つ一つの柱について具体的に御説明してまいります。

第1の柱「学ぶ」、本校が中高一貫校の強みを最大限に発揮するため、6年間を見通した継続性のある教育課程を編成し、実施いたします。6年間を見通した教育課程編成により段階的に高い学力を育成。そして、STEAM教育の充実と教科横断的な学びによって、教科の枠を超えた探究活動を展開していきます。教育D Xの推進により個別最適な学びと協働

的な学びの両立を実現し、タブレット端末とクラウド回帰を活用し、学習データの分析に基づく指導改善を推進してまいります。そして、ラベリングリストの活用により、自学自習の促進と学習支援体制の充実、これらを通じて確かな学力という揺るぎない基盤を築いてまいります。

第2の柱は「生きる」です。未来志向で高い目標を持ち、希望する進路を実現するとともに、未来に貢献できるグローバルリーダーを育ててまいります。自己実現を目指して主体的に進路を選択していく態度を育成すること。そして、STEAM教育、グローバル教育、アントレプレナーシップ教育の3領域を有機的に連携させ、「探求人」を育成していくこと。海外6大学との指定校協定を基盤としたプログラムを推進し、世界で学ぶ道を具体化していくこと。そして、卒業生や地域、千代田区中学の豊富な教育資源を活用した教育プログラムの改善・充実を図っていくことです。進路は単なる出口の指導ではなく、生き方の指導であります。生徒一人一人が自分らしい未来を描けるよう、教職員が寄り添ってまいります。

第3の柱は「鍛える」です。自らを律し、思いやりの心や感謝する心など、豊かな心を育ててまいります。本校の伝統、他者への思いやりはあらゆる場面で徹底してまいります。体育祭、九段祭、至大荘行事など、学校行事を通して帰属意識と互いに高め合う集団を形成し、特に千葉県勝浦市で行う至大荘行事は本校の象徴的な行事となっております。部活動の充実により文武両道の精神を涵養し、前期課程から後期課程への円滑な接続と持続可能な運営体制を整えてまいります。学力だけではなく、人としての豊かさを育てる。これが九段の教育の心髄です。

第4の柱は教育D Xの推進です。本校は全国でもまれな複数のD X関連事業の指定校としての立場にあります。文部科学省生成A Iパイロット校として、先進的なICT活用教育の研究・実践を深化させ、その成果を全国に発信してまいります。また、D Xハイスクール指定校として高性能PC、デジタルファブリケーション機器などの先端機器を整備して、教科横断的な学習を展開しております。同時に、生成A Iを安全かつ効率よく活用できる環境を整え、情報モラル教育も並行して推進しております。これらを通じて、教育D Xにおいても教育のフロントランナーとしての役割を果たしてまいります。

第5の柱は教職員の組織力向上です。本校には長年にわたり築かれてきた「九段ブランド」ともいうべき教職員の高い資質・能力と指導力があります。これを生かしつつ、次代へと発展させてまいります。九段ブランドを生かした学校経営と組織体制の構築、そして、管理職候補者の発掘・育成、計画的な人材育成を通じて、次代を担う教職員を育ててまいります。また、セブンセブン取組ということで、朝7時前の出勤禁止、夜7時以降の退勤禁止の徹底により、働き方改革を一層推進してまいります。さらに、連携校との相互活動及び産学官連携の拡充によって、外部資源を生かした教育の質の向上を図ってまいります。教職員が誇りを持って心身ともに健やかに働ける学校であってこそ、生徒に最良の教育を提供することができるものと考えております。

ここからは、今年度の具体的な取組について、こちらの5領域に整理して説明してまいります。

第1の領域、学習指導・教育DXです。取組目標は「授業を学習指導の根幹とし、生徒・教職員が一体となった事業を展開しながら、『知の創造』へとつなげる」ということです。

具体的方法としては、個別最適、協働的な学びの実現。九段探究プランを中核にしたSTEAM教育・グローバル教育・アントレプレナーシップ教育の3領域の推進。KUDAN CAN-DOリスト、少人数指導、そして、生成パイロット校、DXハイスクールとしての研究実践であります。

重点目標は、教員の指導力向上のための計画的な校内研修と九段探究プランの推進です。

第2の領域、進路指導・国際教育ですが、進路指導では模試分析会や個別ケース会議の充実、実習室への大学生サポーター配置、先輩に聞く会議などを実施いたします。

第3の領域、生活指導・健康づくりですが、取組目標は規律ある生活を基盤に知徳心体のバランスが取れた生徒を育成することです。生活指導では「至大至剛」に基づく基本的生活習慣の定着、いじめアンケートの年3回以上実施、SNSトラブル防止と情報モラル教育、特別支援のインクルーシブ教育の充実を進めてまいります。健康づくりと心のケアでは、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化、SSRルームの利活用を推進してまいります。

続きまして、取組の第4領域、特別活動・広報活動、そして、第5領域の学校経営・働き方改革です。

特別活動・広報活動では、九段探究プランを1年「感じる」から6年「広げる」まで体系的に実施し、至大荘行事、体育祭、九段祭など学校行事を充実させます。企業訪問、大使館、TGG、ちよだフィールドワークなどの体系的学習を深め、さらに広報活動を展開してまいります。

さて、こちらの画面を見ていただきたいのですが、これは本校の校章と本校の生成AI独自アプリ「otomotto」のロゴマークです。本校の校章は大正13年に初代美術教諭の香川敬事が東京市の紋章である六角形に菊花と「中」の字を配して草案されました。その後、学生改革を経て「高」となり、そして、中等教育学校への転化に伴い「九段」へと変わってまいりました。100年を超える歴史の中で幾度の変化を遂行しながらも、この校章が示す「至大至剛」の精神は脈々と受け継がれております。

一方、本校の生成AI独自アプリ「otomotto」は、生徒たちの学びのお供になりたいという願いを込めて、生徒自身が制服をモチーフに「対話」をイメージして草案してくれた名称とロゴです。温かく親しみやすいデザインです。

この校章と「otomotto」のロゴを並べるとき、私たちが大切にしていることが見えてきます。それは、伝統を尊重しながらも時代の流れに敏感に対応し、生徒たちの可能性を最大限に引き出していきたいという思いです。「豊かな心 知の創造 未来貢献」を掲げ、グローバル教育やSTEAM教育、アントレプレナーシップ教育を推進する本校は、開校20年を

迎えた今、これまで九段を築いてこられた同窓生の皆様の思いを継承しつつ、千代田・九段から未来をつくるという気概と使命感を持って、次の10年を見据えた学校経営に全力を尽くしてまいります。

菊友会の皆様をはじめ、本学校経営評議会委員の皆様と共に、未来を担う人材の育成に邁進してまいります。

以上、私からの学校経営方針、学校経営計画についての説明といたします。ありがとうございました。

○会長 一旦ここで切ったほうがよろしいですか。今までの中で御質問等ございましたら、御意見をお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

では、私のほうから1つだけ。今、富川先生のお話の中で中期的目標とその達成に向けた方策のところ5つのアイテムを御説明いただいたと思います。昨年度までは中期的な目標というのが3つのアイテムだったと思うのですが、その辺は意図的に2つ足されたゾーンというのは何かございますでしょうか。

○校長 中期的目標を5つの柱で構成いたしましたのは、教育DXの推進と、学校経営に当たっては教職員の組織力が不可欠であるという考えからでございます。4月1日の企画調整会議で教職員に申し上げましたのは、強いリーダーシップも大切ですが、同じ方向を向いた多くの教職員による組織力の方が、学校をより良く推進していくことができるということです。こうした考えから、新たに4番目、5番目の柱を加えさせていただきました。

○会長 分かりました。ありがとうございます。

皆さん、何かよろしいですか。

それでは、続きまして、山中副校長のほうから各分掌及び各学年の組織目標についてお願いいたします。

○前期副校長 私からは、各分掌の組織目標について、概要と新規の取組等を中心に御報告いたします。

この資料4、統一された組織で各分掌が書かれています書類を見ながら御説明いたします。

本校は、千代田区立九段中等教育学校管理運営規則に定めるとおり、未来貢献部、知の創造部、豊かな心育成部、SMP部、CNV室の5分掌6学年で学校運営を行っています。1学年から3学年を前期課程、4学年から6学年を後期課程としており、前期課程は2人担任制を対応しています。1学年40名、4クラスを基本とし、今の1年生からは人数が減っているのですが、900名を超える生徒が生活しています。

それでは、具体的に各分掌、学年の令和8年度取組目標について御報告いたします。

まず未来貢献部からです。本校の教育目標にちなんだ名称の分掌の一つで、主に本校の6年間のキャリア教育及び6学年での進路指導を担う分掌です。令和8年度は昨年度より1名増員の5名で運営しています。

資料を御覧ください。

今年度の組織目標、中期目標を4つに決めました。「(1) 各学年と連携し、6年間を見通したキャリア教育指導計画の推進」、「(2) 模試・学力テストを踏まえた分析会・志望校検討会・出願検討会の効果的な実施」、「(3) 特色入試(総合型選抜・学校推薦型選抜)受験者に対する進路サポートの充実」、「(4) 卒業生によるサポートの充実」です。

このほか、今年度新たな取組として、進路通信を定期的に発行し、模試分析結果を担当や教科担当者に対して現状の課題の共有を図ります。また、定期的な分掌会の開催や第6学年担任団と未来貢献部の進路情報共有会や模試分析について行っています。

続きまして、CNV室です。CNVは「to Create New Value」の略称で、最先端教育プログラムの開発及び本校の九段探求プラン、選抜海外派遣研修等の国際交流を担当している分掌です。令和8年度は昨年度より2名減員の6名で運営しています。

資料を御覧ください。

今年度の組織目標は4つに決めました。「1. カリキュラムの仕組み化・体系化」、「2. 3つの領域の質的充実」、「3. 『ラベリングリスト』の活用と定着」、「4. 組織体制の最適化」です。来年度の組織体制の変更や移行を視野に入れ、現在のCNV室及び関連する校務内容を洗い出し、業務を精選し、メンバーの強みに応じた役割分担の最適化を進めることで、持続可能で負担の少ない推進体制を構築します。

続きまして、知の創造部です。知の創造部も先ほどの未来貢献部と同様、本校の教育目標にちなんだ名称の分掌の一つで、教務の仕事を担う分掌です。令和8年度は6名で運営しています。

資料を御覧ください。

今年度の中期的目標は、「1. 確かな学力の定着と進路実現に向けた組織的対応力の強化」、「2. 『誰一人取り残さない学び』の実現と支援体制の構築」、「3. 教育活動のDX化推進による校務効率化と働き方改革の実現」です。特に「1. 確かな学力の定着と進路実現に向けた組織的対応力の強化」に力を入れて取り組みます。そのために、授業改善と評価の一体化、カリキュラムの見直し、組織的な生徒支援・教育相談体制の充実を図ってまいります。

続きまして、豊かな心の育成部です。こちらも本校の教育目標にちなんだ名称となっており、生活指導を担う分掌です。令和8年度は9名で運営しております。

資料を御覧ください。

今年度の中期的目標は、「1. 社会で自己実現できるリーダー性の育成」、「2. 望ましい人間関係の中で、自主・自律の精神を養う」、「3. 不安のない学校生活の実現と不登校等の長欠生徒の課題解決を図る」、「4. 部活動の在り方に関する方針に基づき、学習活動と両立できる環境整備を図る」となっております。

この中で、「1. 社会で自己実現できるリーダー性の育成」、「4. 部活動の在り方に関する方針に基づき、学習活動と両立できる環境整備を図る」ことに力を入れて取り組み

ます。そのために、生徒自治会活動の活性化、生徒主体の学校行事運営ができるよう、学校説明会で生徒視点からの学校生活の紹介を行ったり、行事の実行委員を中心に体育祭、九段祭の企画、立案、運営を行っていきます。

また、部活動においては、外部指導員や外部委託を多くの部活動で導入しており、教員の負担軽減にもつなげております。その一方で、トラブル等が起こることもあり、実際は教員の負担増となっている面もあります。

続きまして、SMP部です。SMP部は「School Management Promotion」の省略で、主に本校の魅力発信を担当している分掌です。本校は令和6年度から教育DX加速化事業指定校、DXハイスクール、令和7年度から生成AIパイロット校といずれも文部科学省事業の指定を受けています。そのため、海外及び全国からの視察が膨大にあることなどから、昨年度途中から教育DXや生成AIに関する対応をSMP部で行っています。

また、今年度は中等教育学校となって20周年に当たり、秋に20周年記念式典及び記念誌の発行を予定しているため、SMP部付として周年広報担当を任命しています。

今年度は昨年度より1名増員し、4名で運営しています。

資料を御覧ください。

今年度の組織目標は2つ決めました。「広報活動の最適化」、「20周年行事の実施と教育DXの推進」となっております。こちらを中心に行っていきたいと思っております。

続きまして、学年に移ります。

まず第1学年です。中学校1年生、23回生となります。現在、中学生になって2か月が過ぎ、初めての定期考査を経験したところとなります。

1学年は、学習に向かうための学校生活の基盤をつくっているところです。生活指導面に力を入れ、自己管理能力を身につけさせることに取り組みます。手帳を活用し、予定や時間を管理できる力を身につけさせたり、ホームルーム委員、生活委員による月間、週間目標を周知し実践することで「落ち着いた学校生活」の実現を図っています。時間を守ることは比較的良好ですが、忘れ物といった「物の管理」に課題があるため、手帳のチェック、委員、係の声かけ等を実施しております。

第2学年、22回生です。学年目標である「気づき・考え・行動する」～居心地のよい学年 当たり前を当たり前に～、この「当たり前を当たり前に」というところに重点を置いて生徒指導をしています。また、「気づき・考え・行動する」という言葉を合い言葉として日々生活をしています。

基礎学力の定着において、平日2時間、休日3時間の学習時間を確保するよう指導しています。ただ、これまでは課題をしっかりとやっている生徒は残念ながらまだ少ない状況ですので、家庭学習時間や方法について適宜アドバイスをを行います。

学習指導において、学力推移調査において学習到達ゾーンA3というのは、国公立大学、中堅私大レベルとなっているのですけれども、これ以上を目指すとしています。今年度4月に実施したテストでは、国数英の3教科合計で3を取りました。

学習したこと、経験したことをしっかりと振り返ることを大切にし、振り返りの時間を定期的に設けることとしております。

第3学年、21回生です。学年目標は「学ぶ 問う 学び合う」です。自分が何者であるかを知ること、そして、公共の場を成立させる個人となることを最終的な個々のゴールと捉えております。そのため、他者を認め、集団で場を形成する主体となる生徒を育てていきます。

学習指導についてです。学習習慣の重要性を保護者会で共有し、家庭と協力して取り組んでいきます。そして、考えるための知識の定着を図り、学習習慣を定着させたいと考えています。

生活指導面では、行事の運営や日常的な係活動を通して、生徒に全体の中での役割意識を持たせるよう育てています。昼休み、放課後、短時間での集まりを積み重ね、集団の中での役割を自覚させるよう指導し、係生徒を中心に自分たちでつくり上げる意識を持てる行事をデザインさせていきます。

4学年です。高等学校1年相当の学年で20回生です。2人担任制だった前期課程から進級し、担任は半減しました。新学年団は昨年度からの持ち上がりが3名、新規1名で構成されました。

資料を御覧ください。

学年目標は「志仁義一組織人として一」です。様々な組織の一員としての自覚を促し、関わる全ての人に対しての仁を志し、実践していきます。そして、多くの人に応援してもらえるような集団、人になることを目指します。

令和8年度の組織目標を4つに決めました。学習指導、生活指導、進路指導です。その他のところに至大荘行事等のことを載せております。4年生は今年度も希望制で至大荘行事を実施します。昨年度、台風及び津波警報発令により途中で中止になったため、昨年度対象であった19回生にも参加募集を呼びかけました。結果、19回生からは1名参加することとなり、総応募人数は138名で、1期66名、ここに19回生を含みます。2期に72名が参加予定です。生徒、教職員の安全を第一に実施します。

5学年です。高等学校2年相当の学年で19回生です。学習棟と呼ばれる富士見校舎への移動を通し、6年間の仕上げ期を意識する段階に入りました。

新学年団は昨年度からの持ち上がりが3名、新規1名で構成されました。

資料を御覧ください。

学年目標は「思行と気配り」です。「思行」とは思いやりを持って行動するということ、「気配り」は周りに気を遣うのではなく、気を配ることを心がけると定義しています。

令和8年度の組織目標は4つに決めました。御覧のとおりです。学習指導、生活指導、進路指導、その他でこちらのほうに書いてあります。

5年生はシンガポール・マレーシア研修旅行を実施します。今年度初めてマレーシアにも訪問できることになりました。このシンガポール・マレーシア研修旅行を通して生徒の

学習意識・社会性の向上を目指します。また、探究活動とリンクさせて、現地大学生とのディスカッションや現地に通う高校生との交流を企画することで、視野を広げ、確かな経験値とします。

最後に6学年です。高等学校3年相当の学年で18回生となります。最上級生となり、九段卒業後の進路を決定する1年を迎えました。

新学年団は昨年度からの持ち上がりが3名、新規1名で構成されました。

資料を御覧ください。

令和8年度の組織目標を4つに定めました。「1. 体育祭実行委員会幹部、応援団、マスコット、チア等、体育祭での取組に対する指導」、「2. 学習面の継続的な支援（日々の授業、放課後の対応、夏季講座）」、「3. 担任、生徒、未来貢献部の連携（面接、模試の活用、調査書作成した組織的取組の推進）」、「4. 卒業に向けた指導（年度末）」です。

6学年「広げる」の目標の下、国公立志望者、推薦型生徒の希望を粘り強く支援し、生徒一人一人について希望進路を実現させ、これまで6年間の集大成となる1年を過ごさせるとともに、生徒全員無事に卒業させることを目指します。

長くなりましたが、以上です。

○会長 ありがとうございました。

では、ただいままでの御説明の内容について質問、御意見等ありましたらお願いいたします。

加藤委員、どうぞ。

○委員 P.A.会長の加藤と申します。

去年から委員をやらせていただいておりますので、去年のどこだったかな。ツムギノが結構不具合が多いという記載がたしかありまして、とてつもなく多く、テストのような扱いと感じているというような、去年、なかなかここで読み切れなくて、家に帰ってから読んだときにそういう記述があって、我々は配信されているのを見るだけなのですけれども、ほかにもシステムのいろいろな多岐にわたっているのだと思うのですけれども、非常に不具合が多いということで心配だなとちょっと思ったのですけれども、その辺はどうなのですか。今年度は改善というか。

○前期副校長 そちらは知の創造部のところにも書いてあるのですけれども、実際にまだ皆さんに配信する部分とかの不具合は起きていないのですけれども。

○委員 多分そうですね。我々が見ている分には出ていない。

○前期副校長 校務支援システムで一体化していますので、校務の中で成績を処理する部分とか、そういう処理というか成績を作るところ、あと、出席日数ですね。その辺を管理するところとかが時折不具合を生じていまして、それを皆さんに通知表としてお渡しするとか、調査書になるときに不具合がないように、先に知の創造部と関連する部署で何度もチェックしていますので、おおよそそのところで不具合が見つかる。それを修正依頼す

るところで、皆さんに対して不利益なことがないようにというのをやっているのですけれども、私の以前の学校とかから比べても新しいシステムに導入したときの不具合がちょっと多いかなという気はします。ただ、それを未然に防ぐというように頑張っております。

○委員 恐らくどこかで使っているのを使うというのではなくて、新しいことをされているのだなと想像しておりますし、僕が心配しているのは先生方の御負担なのです。これは先生方の負担軽減という意味合いも大きいと思うのですけれども、我々に不利益にならないように頑張っているのは私は本当にすごく分かってはおるのですが、そこがちょっと心配だなということです。

すみません。ちょっと話が飛んでしまうのですけれども、部活の外部委託で鍵の管理とかで結局負担軽減になっていないというような記述も見られて、つまりは先生方の御負担が私は一番心配でして、部活の件も多分一朝一夕には、なかなか鍵の管理、部活によって場所がいろいろでしょうからあれなのでしょうけれども、その辺は先生方の負担軽減に向けてどうですか。今後進めていかれるような状況でしょうか。

○前期副校長 ありがとうございます。

ツムギノに関しては、本当はいろいろな軽減のための導入なのですけれども、それが導入したてだということもあるので、なかなかうまくいかない部分は今後に向けて改善していきたいと思います。

部活動の鍵の問題は、実は施設の校舎の問題とかもいろいろ絡んでいまして、ほかの中学校の2校は外部に貸し出しをしている関係等で土日警備の方がいらっしゃって、そこを通して鍵を貸せるとか、そういうことがあるのです。

○委員 千代田区内のほかの、神田一橋とか。

○前期副校長 本校は貸し出しというか開放していないので、常駐している方がいないとか、そのところの鍵を今どうしたらいいかという話を考えたりしているのですけれどもというところです。

○委員 千代田区内のほかの2校と同じようにというのにはなかなか。

○前期副校長 そうですね。警備の方がいるのは開放しているからということでもありますし、このところはそもそも開放とかは今しているわけではないので、いろいろなことが絡んでしまうかなということでございます。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○会長 ほかにございますか。

どうぞ。

○副会長 資料3の進路指導・国際教育のところ海外研修が幾つかありまして、かつ、今、5学年でシンガポール・マレーシア研修旅行というお話があって、これはまず最初に単純な質問ですが、研修旅行というのは全員行くのですか。

○前期副校長 基本的に全員行きます。

○副会長　そうですか。選抜するというのは、限られた。

○前期副校長　はい。希望者です。

○副会長　実は私が所属している大学だけではなくて、早稲田と立命館で今ワンツー、留学ツートップの大学もそうですけれども、円安で費用がかなりかかるようになって、長期留学の学生の数がやはり、というか応募しても来ないとか、なかなか頭打ちになっているところがありまして、我々のような大学が力を入れていないところはゼロに限りなく近く低空飛行しているという状況なのです。全く同じことが恐らく高校にも波及しているはずですので、この辺の選抜で、かつては希望者でも行けなかった学生が結構いたのだと思いますが、最近の状況はどんな感じなのですか。

○前期副校長　UCLAとシリコンバレーがメインで、まずは夏休みと秋休みのところに募集しているのですけれども、UCLAは去年は15名で、今年20名の希望者が行っております。そのところは人数が増えているかなというところがありますが、シリコンバレーはちょっと人数を減らして10名で。

○副会長　応募者は定員の中に入っているのですか。

○前期副校長　そうなのです。定員の中に入っているので、大きな選抜を行うという状況には今なっていないです。

○副会長　分かりました。

○委員　しょうがないのですけれども、やはり費用が100万円近くかかって、うちは娘なのですけれども、どうしても行きたいと言えばお父ちゃんは頑張るのですけれども。

○副会長　牛丼を食べていただいて。

○委員　そうなのです。そうすると、よほど行きたいと言ったらあれですけれども、そういうことになるこれぐらいの人数なのかなという感じと、海外研修成果報告会というのがチラシにも、今年は11月21日にあるのですが、これが素晴らしいです。行った子たちがまず何を言うかということ、ほとんどのみんなが円安で費用がかかるときに行かせてくれたお父さん、お母さんに感謝したいと言うのです。聞いていた保護者が感動し過ぎてしまって、先に聞いていたら娘にももっと強く言ったかなと。行った子たちは本当に成果を出しているといえますか、お金は確かにそうなのですけれども、行ってほしいなという気持ちになりました。うちはもう6年生なので、今さら言えないのですけれども、下級生は無理して行けるのであれば本当に行ってほしいという気持ちでした。

○副会長　ある大学では、協定校が何百もあるのですけれども、ほぼ毎年相当入れ替えているのです。3分の1とか、固定的に安定しているところというのはほんの一部で、人気があつて、それは研修旅行のときもそうだし、サマースクールも語学研修もそうなのですけれども、ころころとは言わないけれども、ある程度変わっていくことは悪いことではなくて、相手側の学校の事情もあるし、先ほど言った予算のこともあるし、あと、先生のこともあるし、なかなかいろいろありますので、どこかのエージェントを使われているかもしれませんけれども、どうぞ御苦労されているかと思いますので、交渉とかも大変だと思います。

いますが、変化してもしろくろ変わってもちゃんと我々のほうでサポートさせていただき
ますから、どうかいろいろフレキシブルに御対応していただければと思っております。

○前期副校長 ありがとうございます。その辺は特にCNV室等が話をもんだりしております
ので、伝えていきたいと思います。

○会長 今、海外研修絡みのことが出てきましたけれども、皆さん、これに関してはいい
ですか。よろしいですか。

私、1点だけあるのですが、これだけ一生懸命やられて、生徒にとってはかなりのオポ
チュニティーがあるという前提に立ったときに、今、池本副会長がおっしゃったように費
用面で断念せざるを得ないとか、そういうお話があるとすれば、逆に費用面とかそういう
のももう少し何か支援をしてあげるとか、そういうことは教育委員会としては何かお考え
でしょうか。

○子ども総務課長（事務取扱参事）では、私のほうから。

今いただいたお話で、昨年度も申し上げたところですが、区内に住んでいる方につい
ては、中高生世代応援手当ということで令和7年度から月1万5000円をお子さん一人当たり
区のほうでお支払いしているのが一つでございます。

それからもう一つ、これも令和6年度から実施しておりますが、教育ローンの利子補給
金制度ということで、最大400万円まで、上限使う方はなかなかいらっしゃいませんけれ
ども、区のほうで年間10万円まで利子補給をするという仕組みを設けております。実際に申
請を見ていると、海外留学でお使いになる保護者の方もいらっしゃいますので、そういつ
た制度も含めて御支援などでできればなと思っておりますし、あと、東京都のほうもかなり
海外留学について様々な支援を昨年度から実施しておりますので、そういったところも学
校のほうに通知させていただいて、お子さんたち、また、保護者の方々がそういう仕組み
を御利用いただけるように周知を図ってまいりたいと思います。

○会長 せっかくそういうローンがあって、お使いになっていらっしゃる方が現実にいる
のであれば、金利も小さいでしょうから。

○子ども総務課長（事務取扱参事）そうですね。今、少しずつまた日銀が上げようとして
いるので。

○会長 借りたほうがいいのかというのはあるかもしれませんので。

どうですか。

○委員 うちはもうあれなのですからけれども、そういうのを周知してもらえれば使う方はい
らっしゃるかもしれないですね。でも、まず子供が絶対行きたいというところがあれば
かね。

○会長 そうですね。でも、せっかくのオポチュニティーがある、チャンスがあるので
あれば、活用しない手はないと思いますので、ぜひそういうことも含めて、よりPRして少
しでも支援ができるようにと思っております。よろしくお願いします。

○子ども総務課長（事務取扱参事） あと、ちなみに給付型奨学金、大学受験のほうです

が、子ども総務課で給付型奨学金を昨年度から実施しております。こちらでも大学に入学するときに最大上限、入学金の補助を20万円、その後、よい成績を毎年取っていただいて、在学中の学生に対して年間80万円までの奨学金を出します。それが4年制だろうが6年制だろうが、最後まで卒業するまで給付させていただきまして、順調に無事卒業できるということであれば、給付型奨学金ですのお返しいただくなくて大丈夫という仕組みを昨年度から実施しております。

○会長 分かりました。ありがとうございます。

この件に関してはよろしいでしょうか。

○委員 ちなみに、上限は何人ぐらいとか、予算とかはどうですか。

○子ども総務課長（事務取扱参事）一応15名で考えてございます。

○委員 15名。手厚いですね。

○子ども総務課長（事務取扱参事）なかなか条件も成績の上位を取っていただかないという形で厳しくは設定しているのですが、九段中等の生徒の方々が高1から申し込むまでの間で内申の平均が3.5以上という形でやらせていただいております。それ以外の学校は基本4.0以上ということで、中等の方々には3.5とさせていただいております。

○委員 それは九段が優遇されているということですか。

○子ども総務課長（事務取扱参事）やはり区立の唯一の中高でございますので。

○会長 ほかによろしいでしょうか。

○委員 さっき部活のコーチとかの外部委託で鍵の問題のお話が出たと思うのですが、警備の人が昼間いないから鍵の貸し出しとかが難しいという話だったのですが、警備は夜もいないのですか。

○前期副校長 警備は夜もいないです。

○委員 いらないのですか。機械警備はしているのですよね。

○前期副校長 はい。機械警備はしています。

○委員 警備員さんがいないと。常駐していないということですね。それはできないのですか。でも、ほかの2校にできているのにここだけできていなくて、それで先生たちに負担がかかって、変な話、先生たちが週末に出勤したらお手当が出ますよね。出ないのですか。

○前期副校長 部活動の手当は出ています。

○委員 そうですね。そのお金を考えたら駄目ですかね。難しい。

○子ども総務課長（事務取扱参事）貸し出しをまずするのかしないというところが一点あるかなと思います。貸し出しをするとすると、これは神田一橋も麹町も一つジレンマがどうしても出てくるのですが、施設の点検を土曜日、日曜日にできなくなってしまう。どうしても校内で年に何回か確認しなくてはいけない設備もあつたりしますので。

○委員 でも、別に毎週ではないですよ。

○子ども総務課長（事務取扱参事）ただ、やはり夏休みとかにすごく集中してやったり、

小学校とか中学校もそうなのですから、やっていたりはしますので、そういうところのジレンマがあるので、本当に貸し出しして、それに警備員さんを置くというやり方も一つなのですが、それ以外に施設を休ませるといふところの意味合い、休ませることによっていろいろな点検があったり、あと、工事をやったりといったところもありますので、そこは難しいところなのです。最終的にはまた学校の中でいろいろ御検討いただいた上での判断になるかと思うのですが、今のところ貸し出しをしていないということもあって、警備員をわざわざ置かないで機械で警備をしているという状況です。

○委員 鍵の問題だけだったら、ほかのマンションとかでもキーボックスとかそういうものを利用して、整備とかそういう人たちが出入りすることも実際に行われていると思うのです。だから、鍵の問題だけだったら幾らでも対応の仕方があるのではないかなとは思いますが、まずは警備さんがいてくださると安心ですね。

実は昔、うちの息子がマラソンの前の日に柵を乗り越えて靴を取りにいったことがあって、その日は別に何も問題、連絡はなかったのですが、翌日か何かに、お母さん、実は警備のモニターに映っているのはどうもそちらの息子さんのようですと連絡があって、だから、私は警備さんがいるのだと思っていたのです。モニターなのですね。分かりました。

ほかの2校はできているのにというのがちょっとひっかかったので、同じ区内なので同じようにしてあげたいなと思いました。

○子ども総務課長（事務取扱参事）そうですね。

あと、例えば運動場とか校庭とか体育館とかトイレにだけ行けるようにというルートがある程度決まっていればいいのですが、警備員さんもそこだけ見ていけばいろいろセキュリティを守れるということなのですが、入っていただくと分かるとおり、校舎内のどこにでも基本は行けてしまうので、そういった面で、やはりそこにいられてしまうという場合、月曜日に子供たちが来たときに何か危険なことがあった場合と考えると、今の校内の環境だとなかなか難しいかなとは思いますが。

○委員 分かりました。御検討いただいて。

○前期副校長 キーボックスとかは考えたりしたのですが、今お話があったとおり、どこにキーボックスがあっても誰でも行けてしまうので、なかなか配置が難しいなというところで今止まってしまっています。

○会長 皆さんよろしいですか。

どうぞ。

○委員 また部活の話で恐縮なのですが、先生のほうからトラブルが起きるケースがあったという話がちらっと出ていたと思うのですが、具体的にはどんなトラブルがあったのか、差し支えない範囲で。

○前期副校長 基本的に外部委託をすると、そこに全部お任せ状態になってしまうのです。実はそのところで、小さな言い合いですとか、どこでもあるようなトラブルがあるので

すけれども、それを収めてくださらない。なので、結局、そういうことがあるみたいなのですけれどもどうですかと確認すると、確かに見ていましたと言われるが、報告も上がってこなかったり、そういうところがあるので、委託をしているのだけれども、最終的に生活指導面は教員が引き受けるという形になったりするということです。

○委員 外部委託の場合には顧問という先生はつかなくなるということですか。

○前期副校長 そうなのです。外部委託をしている間に、顧問も一緒に併用して何か指示を出しました。そのときにけがをしましたとなるとどちらの責任なのだというところで、責任を外部委託のほうが取れなくなってしまうため、顧問はいないようにしてくださいと。なので、学校の中でも管理顧問ではないですけれども、顧問は当然いるのですけれども、外部委託に任せている間は、顧問が変に口出しをすると、何かあったときにどちらの責任かということが起きたりするというので、その場にはいないというのが大前提です。

○委員 各論的な話だと、水泳部の場合にはコースごとにとか顧問がついたり、外部講師の方がついたりする形で分担をしていると。でも、レースとか大会とかに行くときに全員引率するときになると、顧問が行くこともあれば外部講師も行くこともある体制だと思うのですけれども、あまりトラブルが起こっているような印象はなかったのです。

○前期副校長 そこからは上がってきたことはないです。

○指導主事 部活動に関しては、私のほうからいいですか。外部委託のほうは教育委員会で委託をしているのですけれども、指導者を派遣してもらっていると、教員と同じような生徒の扱いという部分でいうと、やはり指導の観点のほうが強いので、現場の教員と同じような感覚でなかなか見てもらえないという部分は確かにあるのです。ただ、基本的には何かあったら報告を上げていただいて、問題があれば研修等を行ってというふうに、それは学校側とも連絡を取りながら、何かあれば改善を行っていくという形で外部委託を実施させていただいています。

○委員 いいですか。今、研修とおっしゃいましたが、外部委託コーチを研修するのですか。

○指導主事 研修というのは委託業者のほうで研修のシステムをきちんと持っているのです、何かあればそれを伝えて、そして、それを改善してもらう。

○委員 改善してもらう。昔とは全然違いますね。

○委員 よろしいですか。今、一般的には各学校ごとに部活をやるのではなくて、地域で例えば3校の学校で1つの部活をやるみたいな動きがあると聞いているのですけれども、千代田区の場合は今どんなふうな動きになっているのでしょうか。例えば野球チームとかとは人数が少なくなってくると、1チームを各学校でつくるのは難しくなったりしてきたりすると思います。たとえば、三つの学校の共通部みたいなのをつくるのか、顧問がいなかったら活動ができないようにするのか、こういった講師を外部委託にしていくのか、いろいろな選択肢があるように感じました。今後は、どのような流れを今お考えなのでしょうか。

○指導主事 千代田区のほうではまず東京モデルという大きな3つのモデルがあるのですが、一つはクラブ化、クラブチーム化というものと、あとは一般におっしゃられたような拠点化、幾つかの学校が集まって合同部活動を開催する。あともう一つは部活動の外部委託であるとか地域人材の活用という3つのモデルのうち、千代田区では3つ目のモデルというところで、現場の教員も例えば主でやりたいという教員もいるので、そういった先生方の要望も聞きながら、地域人材を活用して、今のところは各学校単位で部活動の外部委託を行っているというところになっています。

ただ、今後、現場から例えば人数が少ないからやはり合同でやりたいとか、そういう声が強くなってきた場合は、検討していく余地はあるのではないかなと思っています。

○委員 ありがとうございます。

○会長 いろいろ細かい話が出てきたのですけれども、ベースの部分で質問をさせていただきたいのですが、「外部指導員及び外部委託を多くの部活動で導入しており」という文章がここに書いてありますが、何のために外部委託と外部指導員を入れているのですか。

○前期副校長 まず、外部委託というのはそのまま委託ですので、活動がその方で成立するものになるのです。教員が働き方改革等いろいろありまして最後の6時まで見られないとかそういうときにも、その方が6時まで見て部活動を閉めるということが可能になる。そうすると、顧問として最後までいなくてはいけないというところが解消されて、部活の顧問をしているけれども、早く部活を閉めるとかそういうことをしないで済むという利点があります。

○会長 それは外部委託ですか。

○前期副校長 外部委託です。

外部指導員というのは、あくまでもコーチです。教員と一緒に顧問として部活動を基本的に教えるのですけれども、みんながみんな部活動のことが、その競技とかが得意とは限らなかったりしますので、専門にそれができる指導員というものを雇って、コーチはその人にしてもらおう。指導はしてもらおう。ただ、部活として成立するには教員がそこに一緒にいる。

○会長 指導員がいるときには教員が必要なの。

○前期副校長 外部指導員という名前の指導員の場合は、顧問が必要です。

○会長 顧問が必要。委託の場合には顧問がいてはいけない。

○前期副校長 いてはいけないというか、そうです。

○会長 では、次の質問ですが、現実にはこの中等、本校では幾つの部活があって、外部指導員は何名いらっしゃるのか、外部委託は何件、幾つの部があるのですか。

○前期副校長 部活の数は運動部が12、文化部が13でして、運動部の中で、今、外部指導員というのが豊かな心育成部のところで一つの部活について1人、2人、おおよそその運動部で導入していると思いますので、かなりの外部指導員は雇っています。

外部委託しているところはバドミントン部、サッカー部、ダンス部、水泳部、軟式野球

部、卓球部です。文化部は今年になって増えてきたのですけれども、美術部、書道部、吹奏楽部で導入しています。外部委託は9の部活動がしております。

○会長 2～3年前に質問したときには運動部は4つぐらいしかなかったような気がしたのですけれども、その後、予算が増えてそういうことができるようになったということでもよろしいでしょうか。

○前期副校長 そうですね。区のほうが拡大してくださって。

○指導課長 今どんどん拡大させてもらっていて、希望に基づいてそれをつけているので、もうちょっとそれに入ってくるような、また今年度も拡大してやっております。

○前期副校長 後期課程のほうにも広げていただいたので、とても使いやすくなっております。

○会長 基本的にやはり教員の負担軽減というのが大きな目的というわけですね。

○前期副校長 はい。

○会長 それだとすると、そのために何か解決すべき課題があるのですが、枝葉末節とっては言い過ぎなのかもしれませんが、あまり大きな問題ではないですね。鍵の問題とか、警備員の問題とか、何か工夫をして取り決めをするなり、多少なりとも予算がつけられるような中身のようないかがするのですけれども。

○前期副校長 鍵の問題は全員の顧問がそのとき来るではなく、部活動をしている間のところでやれば鍵が要らないとか、今その辺の工夫はしてやっています。

割と多くの学校で指導員を活用する際には、土日に活用する際にはやはり顧問はどの部活にもいますので、活動する日というのを学校の教員が部活動に来る日に当てて、それで、鍵の開け閉めはその学校の教員が顧問として活動するところに協力を願うというような校内でのルールをつくるとかという工夫はできるのではないかなと思います。

○会長 私などは、素人の考えではもう少し卒業生とかそういう方にボランティアをお願いしてでも何してでもいいのではないかなと思ったのですが、昨年度、昨年とか一昨年ぐらいでしたか。卒業生は学校に来るなというようなお話があって、卒業生が勝手に部活を教えるんじゃないとか、そういうような話まで聞こえてきたりしていましたがけれども、基本的には今もそういう考え方なのですか。

○前期副校長 勝手に来るなという考え方ではなくて、部活動の指導をしていただくならこの外部指導員とか部活動指導員または外部委託ということを経ているとやっていただきたいということです。

○会長 外部指導員になるためにはどういう資格が必要なのですか。学校で何かそういう講習をやっているのでしょうか。どこでやっているのですか。

○前期副校長 資格は特にはないと思います。外部指導員に関しては、本当にその部活動との方とのやり取りで、学校の中で必要な書類を書いていただく形です。

○会長 資格は何もないの。

○前期副校長 資格というものが特にはない。その競技とかを教えられるということで、

書類とのやり取りで。

○会長 基本的にコンプライアンスとかそういうことを考えると、ハラスメントとかそういうのがないように。

○前期副校長 そういう取り決めはあります。

○会長 そういう講習を学校がやって指導員を認定するとか、そういう仕組みはないということなのですか。

○前期副校長 今のところはないです。

○会長 どうぞ。

○委員 うちの娘はバドミントン部なのです。今、お話を聞いて、外部指導員なのか、外部委託なのか、バドミントン部は外部委託なのですね。娘の話を聞くと、リーフラスという会社と契約されている。ですから、その会社さんのほうで研修なりコンプライアンスなりが整っているということで契約されているのかなと。親としてはそういう想像です。学生のコーチをやったりして、技術的にはすごく上手だし、うちの娘に聞くと、仲よくやれている。バドミントン部で言えば、仲よくやれているという印象です。

○会長 分かりました。

あまりこれに時間がかかってもしょうがないので、いずれにしても、部活動を一生懸命やっていらっしゃる生徒さんの立場に立って考えたときに、いろいろな障害があって時間が制約されるとか、十分な部活ができないですとか、そういうことにならない方法でいろいろな協力体制を取っていけば、もう少しできるのかな、もう少しうまくやれるのかなという気もしないでもないのですが、そんなところで、ぜひ卒業生でも何でも活用して、外部指導員になっていただくのだったらなっていて、あるいは戸締まりのことも含めてきちんと教育をして依頼をするというような仕組みが出来上がれば、そんなに大きな問題ではないのではないかなという気がします。多少のお金はかかるかもしれませんが、ぜひ御検討をしていただいたほうがいいのではないかなと。そういうので教員の先生方がつまらない苦勞をしながら、生徒に結局しわ寄せがいつてしまうのはちょっとかわいそうなのではないかなという気がしました。

○前期副校長 ありがとうございます。検討していきます。

○会長 ほかによろしいでしょうか。

それでは、議題の2番目、「令和7年度の重点目標と数値目標（最終報告）について」ということがありますので、引き続き副校長のほうから御説明をお願いいたします。

○前期副校長 資料5の「令和7年度重点目標と数値目標（最終報告）確定版」を御覧ください。

昨年度、数値目標を出したところの達成度を御報告します。

まず学習指導について、自学自習に関する肯定的割合、生徒の割合は87.5%で達成しております。ラベリングリストの活用者の割合、ラベリングリストというのは6年間の学習活動を通して身につける資質・能力を24個に分けて、その能力等を授業でどのように活

用するかというものがあつたのですけれども、それは100%、全ての教員が活用しております。

生活指導についてです。いじめ報告は目標としてはゼロだったのですけれども、いじめ報告は7件ございました。ふれあいアンケート3回、これは3回達成しております。いじめ防止研修1回以上、いじめ防止研修として含まれているものの、それだけではない研修だったのですけれども、3回前期課程の各学年の教員に対して研修を行いました。

進路指導です。大学入学共通テスト得点率91%以上、10名と目標を立てましたが、結果は1名でした。大学入学共通テストフル型受験平均得点率70%というところで、75%達成しました。総合型選抜による国立大学合格者10名以上と目標にしましたが、6名の合格者でございました。

特別活動、探究成果発表会等外部公開3回以上、こちらは4回行いました。

探究・起業等関連コンテスト入賞者1名以上、こちらは2名と2チームとなりました。どのようなものかと申しますと、第14回科学の甲子園東京大会筆記競技数学領域第1位、「夢・化学-21」委員会、日本化学会主催化学グランプリ2025金賞、あと、TEP-CUPカップ本選参加特別賞、奨励賞というものを受賞しました。

シリコンバレーの研修参加者は20名以上という目標でしたが、16名の参加でした。

健康づくり、不登校生徒の授業への関係率100%、こちらは43%となっているのですが、前期課程、後期課程の前期課程の生徒が完全な不登校となっており、なかなか授業に参加できず、オンライン提供をしてもなかなかそこに参加できないというところで、後期課程の生徒は授業に関与しているというところで43%となっています。

広報活動です。受験倍率の向上3.0倍超というところが2.95倍でほぼ達成となっています。学校公開等参加者は2,000人以上という目標で、学校公開は935名、学校説明会は2,645名の参加となりました。

裏面、学校経営・組織体制です。主任教諭受検合格は50%で、目標を達成しました。50時間以上の残業者0人は、年度当初36名いましたが、声かけ等をするによって18名になりました。連携校活動及び連携事業等の実施数5回以上、こちらは5回行い、アントレプレナーシップ等の研修は2回行いました。

以上です。

○会長 ありがとうございました。

御質問はありますか。よろしいですか。

それでは、学校経営方針及び昨年度の数値目標等についての質疑は終了したいと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

続いて、議題3の学校経営診断アンケートにつきまして、事務局から御説明をお願いいたします。

松井さん、よろしくお願いします。

○事務局 経営企画室の管理係長の松井でございます。今年度もよろしくお願いいたします。

す。

私から、この場をお借りいたしまして、昨年度も実施いたしました学校経営診断アンケートにつきまして、現状の経過報告をさせていただきます。

今年度につきましても、この学校経営診断アンケートは第1回の開催を秋に予定しております。第2回学校経営評議会までに改めて案を提示させていただいて、その後、確定した上でまた今年度も委員の皆様にご協力いただき、実施したいと考えております。

昨年度はアンケート実施前に何名か委員の方から御意見をいただきまして、その一部を反映して実施させていただいたという経緯がございます。簡単にそのことについて説明をさせていただきます。

昨年度は、実は今年の1月に実施させていただいたのですが、実施に先立ち、主に以下の4点の御意見を何名かの委員の方からいただいたところです。

まず1点目が、各項目を回答するに当たって、評価するための情報が不足しているのではないかと御意見をいただきました。学校側といたしましては、経営評議会での配付資料等により御判断いただきたいと思っておるのですけれども、これに対する対応といたしまして、昨年のアンケートは、アンケートのそれぞれの評価項目前に評価いただくに当たっての参考資料ですね。例えば、これについては第1回会議での配付資料の何番を御覧くださいというような注意書きを明記することによって対応させていただいたところでございます。

また、2点目は、今の1点目の評価するための情報が不足しているという御意見にも関連しているのだと思うのですが、回答欄に判断する情報がないという選択肢を設けるのはどうでしょうかという御意見をある委員の方からいただきました。こちらといたしましては判断材料がないということはないと考えておるのですが、これにつきましては、書く設問の回答欄に自由意見欄を加えることにより対応させていただいたという経緯がございます。

3点目は、自由記述欄の冒頭に、自由記述欄に例えば強みであるとか継続したい点、それから、改善が必要だと思われる点、改善提案などを書いてくださいというような誘導文のようなものを記載するのはどうでしょうかという御意見をいただきました。先ほどの第2点目と3点目も併せまして、7年度のアンケートについては、先ほどの2点目の御意見に対する対応同様、自由記述欄を追加することによって対応させていただいたところでございます。

それから、最後の4点目が、設問項目の追加について具体的な御意見をいただいたところでございます。具体的には、学校経営方針の各領域に対応した設問の追加、例えば具体的には健康づくりであるとか、広報活動であるとか、学校経営・組織体制についての質問であるとか、あとは公開学校行事に対する評価項目を加えてはどうでしょうかという貴重な御意見をいただいたところでございますが、これについては7年度については採用見送った経緯がございます。理由といたしましては、挙げていただいた組織体制、特に教員の

異動状況についてなどの評価というのは、アンケートの評価の項目にはなじまないのではないかと考えた次第でございます。あとは、公開学校行事についても、具体的には九段祭を除き、大半が非公開になっているということもありますので、この御意見については一旦見送らせていただいたという経緯がございます。

こうした経緯を踏まえまして、もう一度また7年度のアンケートにおいては、今回7年度に改善させていただいた自由意見欄に寄せられた御意見も十分勘案した上で、繰り返しのようになりますが、次回の第2回学校経営評議会場で改めてアンケート案をお示しさせていただきたいと考えておるところでございますので、御理解のほど、よろしくお願いいたします。

一旦事務局からの説明は以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

アンケートの今の御説明に関して、何か御質問、御意見等がありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、次回の学校経営評議会において、改めて今年度のアンケート案をお示しただけますようによろしくお願いいたします。

議題については、3件とも終了したということになるかと思いますが、続きまして、その他の項目として、各委員のほうから何か、あるいは学校、教育委員会事務局の方から連絡事項等があればお願いいたします。

連絡事項は追加ではないということよろしいですか。

高田委員、どうぞ。

○委員 至大荘関係のことなのですが、昨年度までは卒業生が入る入らない問題があったりしていたのですが、今年の運営について、校長先生のほうで、たまたま5月の最終週に現場を見にこられた印象とかそういうので、行事に関するお考えとかがありましたらお聞かせいただけたらと思います。

○校長 先日の実行委員会では、何より生徒と教職員の安全を第一とすることを確認いたしました。その上で、学校が主体となって運営を行う方針としております。昨年度は途中で津波の影響により中止になってしまいましたので、昨年実施予定だった形を今年度改めて実現させたいと考えております。

また、菊友会からは、御支援いただける内容についての御提案をいただいております、現在校内で具体的な検討を進めているところでございます。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかによろしいですか。

今年の至大荘行事に関してのお話が今ありましたけれども、昨年度、トラブルがあって全てを実施することができなかった、全部を貫徹することができなかったわけですが、今年度はその分を含めてやられるというお話をお伺いしましたし、昨年度にやろうとしていたことを今年度きちんと見極めるというところなのかなと思いますが。

○校長 全国で水難事故やバス事故、熱中症など、学校行事に関わる安全上の課題が報告されており、文部科学省からも安全に関する指針が示されております。本校といたしましても、こうした指針に沿いながら、参加する生徒及び引率する教職員の安全をいかに確保するかを最優先に、安全対策マニュアルを作成し、それに基づいて実施してまいります。

何より、5月31日に漕艇訓練の現場を拝見させていただき、多くの関係者の御協力の下での実際の様子を目にすることができました。当日の具体的なイメージを持つことができましたので、その経験を生かしながら、校内での検討をさらに進めていきたいと考えております。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。

ぜひ今年度の至大荘が安全に安心の中で実施されることを期待しております。

また、できれば至大荘行事が終了した時点でもう一回というか、振り返りをきちんとやって、それらを共有できたらいいいのではないかなと思うのですが、過去においてはいろいろありましたが、一方的なお話がすごく多くて、直接携わっている人たちの意見を聞いていただくというチャンスがあまりなかったような気がするので、ぜひ実施した結果を踏まえて、その振り返りをし、来年、再来年に向けてさらによくしていくような行事、先ほど来いろいろお話がありましたが、現代に合った、さらによくなったような行事にしていくためにも、多くの方の意見をお聞きするというのは重要ではないかなと思っておりますので、ぜひチャンスがあればそういう振り返りの会を関係者で開いていただけるとありがたいなと思います。

ほかに何かございますでしょうか。よろしいですか。

ありがとうございます。

それでは、時間も大分たってしまいましたが、本年の第1回目の経営協議会をこれで終わりにしたいと思います。

続いて、次回について経営企画室長のほうからお願いいたします。

その前に事務局から連絡がございます。お願いします。

○事務局 事務局から2点ほど連絡事項がございます。

まず、委員の方々の報償費の支払い先につきまして、昨年度までと指定口座の変更等がおありの方はお帰りの際に事務局までお申し出ください。よろしくをお願いいたします。

あと、今回、資料とは別に席上に千代田区公共団体名簿への記載について経営企画室長名の依頼文を置かせていただいております。この経営評議会につきましては、名簿にはお名前だけの記載で、連絡先等は全て本校の住所、電話番号のみの記載となりますが、それであっても差し支えがあるという方はお申し出いただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

では、続いて次回の。

○経営企画室長 それでは、次回の第2回学校経営評議会でございますが、10月の下旬、もしくは11月上旬の開催を考えているところでございます。正・副会長と調整の上、日程については決めさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○会長 では、よろしいでしょうか。

それでは、本日は御協力ありがとうございました。無事終了ということで閉会いたしたいと思います。

本当にありがとうございました。